

教育の窓



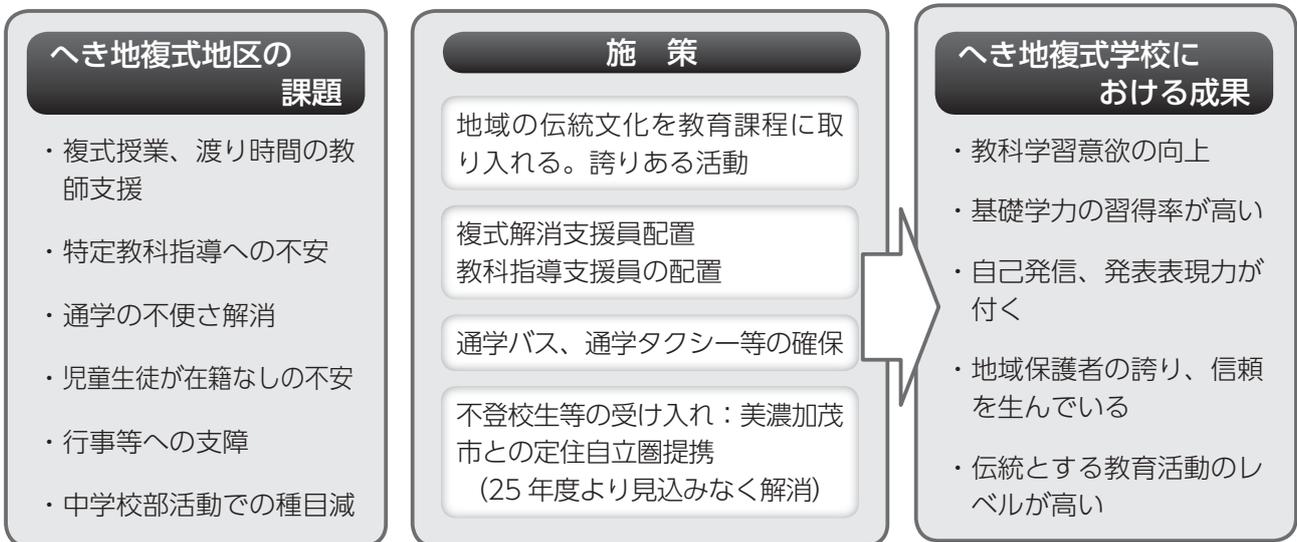
◎ 八百津町 過疎地域の学校教育と方途 ◎

過疎地域の学校教育（一部社会教育）に関わる危惧と長所から考える今後の方途

デメリットと考える内容	メリットと考える内容	今後とる内容
<ul style="list-style-type: none"> ・切磋琢磨ができないのではないかという危惧 ・社会性が弱いのではないかという危惧 ・通学不便の現実 ・教員の質が低いのではないかという危惧 ・設置者の管理費等の課題（校舎の老朽化、廃校の跡地不利用等） ・財政規模の縮小に伴う教育費の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい指導が可能で基礎基本が身につく ・異学年を含めた絆が育つ ・一人一人の教育活動や内容が多く、多様な意識が育つ ・地域保護者との関係が濃密であり、支援が受けられやすい ・学校管理が容易である 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいことは良い事だの意識付け ・きめ細かさの中に切磋琢磨できる内容を入れる ・地域保護者の参入を図り過疎地区ぐるみで未来志向の教育を育むグローバル化 ・最新の教育機器を導入し使いこなす（ICTに過疎はない） ・特色ある教育活動で地域に自信をつける ・社会教育施設の民間活用、指定管理者制度採用

○ 現在の過疎地域に対する教育施策 ○

(1) へき地複式校（久田見小、潮見小、東部中）



(2) 小規模校（八百津小、和知小、錦津小、八百津中）

